

# 「文化財総覧 WebGIS」の公開 —地図から多様な文化財を探す—

## DEVELOPING A GIS FOR JAPANESE CULTURAL HERITAGE

高田 祐一（奈良文化財研究所）

TAKATA YUICHI

(NARA NATIONAL RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURAL PROPERTIES)

### 1. はじめに

2021年7月、奈良文化財研究所（以下、奈文研）では文化財をインターネット上の地図で検索・閲覧できる「文化財総覧 WebGIS」（以下、WebGIS）を公開した。遺跡・建造物・有形文化財など全国の文化財のデータ61万件を閲覧できる。機能やデータ等について紹介する。

### 2. 開発の経緯

奈文研では、1988年より不動産文化財データの全国センターシステムの一部として遺跡データベースを運用している。2003年からは遺跡の抄録データベース、2015年からは発掘調査報告書本文のPDFのデータベースである全国遺跡報告総覧（以下、遺跡総覧）を

運用している。それぞれ膨大なデータを蓄積しているものの、それを地理空間的に把握するためには、報告書を読み込み利用者自身で情報を再構成する必要があった。専門家であっても煩雑であり、まして市民からすると非常にハードルが高い。仮に自宅付近など身近に文化財が存在したとしても、それを平易に知ることができなければ、存在自体を把握できない。そこで、位置情報がある文化財を対象に、GIS（地理情報システム：Geographic Information System）に登録し、一般公開することとした。

### 3. 登録データ

GISにおいてはデータが重要である。今回登録したデータを順に紹介する。

#### (1) 抄録データ

発掘調査報告書には、発掘調査の概要を記した抄録が付加される。抄録には、遺跡の時代・主な遺構・遺物・位置情報等が記載される。奈文研では、2003年から全国の抄録データを集約している。抄録の位置情報は、位置データとして間違っているものがあり、注意が必要である。

#### (2) 遺跡データ

前述の通り奈文研では、遺跡データベースを運用している。遺跡データベースのデータ出典は、報告書を始め、集成や各種事典類である。また、奈文研では、遺跡データベースの内部データとして、都道府県が発行した遺跡地図の一部を調査研究目的で、デジタルデータ化していた。今回、この遺跡地図データも登録した。

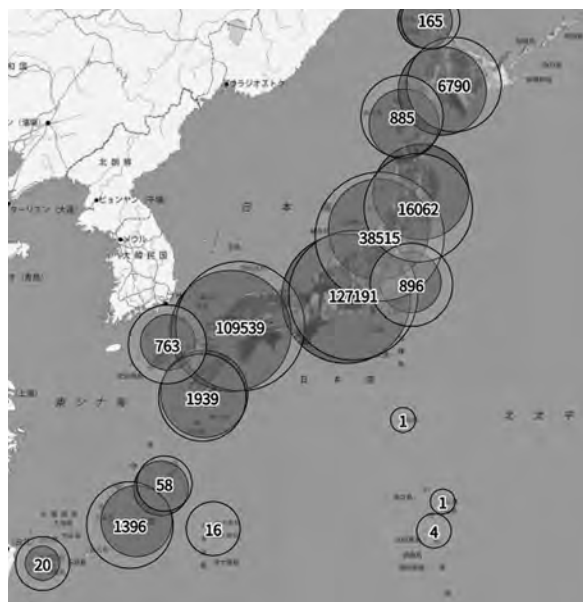


図1 全国の文化財分布状況



図2 皇居、赤坂周辺（東京）の文化財分布状況

### (3) 国が公開しているデータ

文化庁が公開している国指定文化財等データベースのデータ、国土交通省が公開している都道府県指定文化財データ（データの基準年：平成26年）のデータを登録した。

### (4) 遺跡地図のオープンデータ

近年、遺跡地図をオープンデータとして公開する動きがある。既に公開済みの北海道、群馬県、富山県、和歌山県、岡山県、熊本県のデータを変換し、GISに組み込んだ。

### (5) 自治体が公開しているオープンデータ

都道府県では、東京都および熊本県が文化財のデータを公開している。市区町村では、105の機関が公開しており、これらをGISに組み込んだ<sup>2)</sup>。

### (6) 平城京・宮跡に関する調査成果および木簡情報

奈文研は、長年にわたって平城宮跡・京跡域内の発掘調査を実施している。平城宮そのものの解明だけでなく、古代律令国家の建設過程の解明に重要な情報をもたらしてきた。特に木簡については長年、木簡データベース（現在は木簡庫）を運用し、研究者だけでなく広く一般の方々の利用の便を図ってきた。しかし、木簡の出土場所となると、奈文研が運用している地区名（例：6AACVS15）での表記であり、市民には場所の把握が困難であった。木簡の出土地点を奈文研が運用している平城京・宮内の地区割をGISに組み込み、

小地区単位で木簡の位置情報を登録した。今後、木簡以外にも地区ごとに出土遺物を登録できる基盤となった。

## 4. 検索機能

これらのデータには、文化財の時代や種別（集落遺跡か古墳かなど）を付与した。そのため、目的に合わせて検索することが可能である。例えば、弥生時代の集落遺跡で石包丁が見つかった遺跡、といった条件で検索できる。

文化財の所在を示すポイントをクリックすれば、詳細情報をポップアップで確認できる。遺跡総覧にPDFが登録されていれば、PDFをダウンロードでき本文を確認できる。

## 5. 地図データ

GISでは、基盤となる背景地図が必要である。今回は19種類の地図を重ねて表示させることができる。例えば国土地理院の標準地図・空中写真・活断層図等、産業技術総合研究所の地質図、奈文研の遺構図・地形図、兵庫県内のCS立体図（高精度の地形情報）である。利用者の目的に合わせて、地図を重ね合わせることで、様々な分析が可能となる。また、文化財の防災にも活用できるだろう。



図3 古代の集落遺跡の立地状況



図4 平城宮跡造酒司井戸周辺の出土木簡

## 6. おわりに

WebGISでは、利用者の関心のある文化財を条件検索し、目的に合わせて地図を重ねることで、視覚的に結果を確認できる。これにより、今まで文章ではわかりづかった文化財の立地状況を可視化できる。一方、文化財の位置情報が間違っているデータも可視化された。今後修正し、精度を高めていく必要がある。データ更新の仕組みづくりなど、課題は多い。継続的に運用し、改善を続けていきたい。

利用者にはたいへん好評で、2021年7月20日の公開初日は1日で15000のアクセスがあった。ぜひ、「文化財総覧 WebGIS」にアクセスいただき、全国関係機関による調査成果の活用につながれば幸いである。

### 【本稿に関するサイトの URL】

文化財総覧 WebGIS

<https://heritagemap.nabunken.go.jp/>

遺跡データベース

[https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G0000556remains](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000556remains)

抄録データベース

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/search-site>

註

- 1) 高田祐一「遺跡抄録の現状と注意点」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2』奈良文化財研究所研究報告24、2020
- 2) 記者発表資料「文化財総覧 WebGIS の公開」奈良文化財研究所文化財情報研究室、2021年7月19日。[https://repository.nabunken.go.jp/dspace/bitstream/11177/9628/1/20210719\\_WebGIS.pdf](https://repository.nabunken.go.jp/dspace/bitstream/11177/9628/1/20210719_WebGIS.pdf) (2021年8月27日確認)